

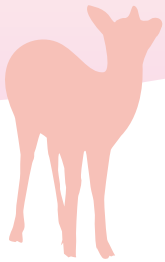


まほろばだより

2016
Spring
vol.16

公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第16号



Contents

- ④ 女子中高生の医療分野進路選択支援「私もなれる!いのちを支える専門職」を開催しました
- ④ FPD講演会「医療専門職とジェンダー～生涯キャリアの観点から～」を開催しました
- ④ ワークライフバランス推進のためのアンケート集計結果報告
- ④ コミュニケーションスキルを学ぼう!
第16回「仕事と妊娠・出産・育児の両立を目指して」～上司編(2)～

>> Report 1

女子中高生の医療分野進路選択支援 「私もなれる!いのちを支える専門職」を開催しました



平成28年1月11日(月・祝)、奈良県文化会館にて女子中高生の医療分野進路選択支援「私もなれる!いのちを支える専門職」を開催しました。

このイベントは、医療分野には女性が活躍できる仕事が多数あることを紹介し、仕事の一端を体験してもらうことで、より多くの女子中高生に夢と希望を持って医学・薬学・看護学を目指してもらうことを目的に、内閣府男女共同参画局から事業採択を受け、本学と一般社団法人奈良県医師会・一般社団法人奈良県病院協会・公益社団法人奈良県看護協会・一般社団法人奈良県薬剤師会が共催したものです。当日は中高生、保護者合わせて約140人の参加がありました。



まず、本学細井裕司学長に開会のご挨拶をいただき、その後、本学中央内視鏡・超音波部の平井都始子准教授による基調講演を行いました。平井先生は「私の歩んできた道、そしてこれから」というテーマの講演の中で、「諦めずに希望を持ち続けて努力することで、楽しいと思う仕事に出会うことができた」としたうえで、「命を支える現場で活躍する女性が増えることを願っています」と参加した女子中高生に応援のメッセージを送られました。

基調講演の後に行われたパネルディスカッションでは、医師、薬剤師、助産師、看護師として活躍する4名の女性が登壇。コーディネータをつとめる須崎康恵マネージャー進行のもと、自身の進路を目指そうと思ったきっかけや現在の仕事のやりがいや喜びを紹介しつつ、これまでのキャリアをどのように積み上げてきたかについて語りました。アンケートでは「今日聞いた話を自分の将来につなげていきたい」という声の他、保護者からは「中学生の娘が進路を考える上でとても参考になったのではないかと思います」という感想をいただきました。

中高生のみを対象とした体験型学習医療ゼミナールでは同志社女子大学薬学部の協力を得ながら、2つのコースに分かれて外科・内科・薬学・助産・看護の実習を体験しました。最後に車谷典男センター長から「今日を機会にして、皆様方が医療系の職種を将来の大きな選択肢の一つに加えていただければ大変嬉しく思います」との挨拶をいただき閉会となりました。



体験型学習 医療セミナーの様子

助産



新生児モデル人形（赤ちゃん）の体の大きさ、呼吸数・心拍数を計測しました。この他に妊婦体験ジャケットを着用し、妊婦になった時の感覚を体験しました。

薬学



尿素や親水軟膏など薬品の計量や調査を行い、軟膏板・ヘラ等の調剤道具を用いてハンドクリームを作りました。開催後のアンケートでも大好評の企画でした。

外科



清潔な状態を保つ正しい手順で実際に現場で使われている手術着を装着し、外科手術で行う基本的な糸結びや縫合の仕方を学びました。

内科



白衣を着用し聴診器で心臓や肺の音を聴いたり、ピークフローメーターという機械を使用して最大瞬間呼吸流速を測定しました。

看護



血圧計やパルスオキシメーターという機械を用いて、血圧・心拍数・酸素飽和度を測定。みんな一生懸命耳を澄まして、脈拍音を聴いていました。



当日は本学から16名、同志社女子大学から4名の学生がTA（ティーチングアシスタント）として参加してくれました。女子中高生にとって一番身近なロールモデルであるTAの皆さんが、気さくに中高生に話しかけサポートしてくれたおかげで和気あいあいとした雰囲気の中イベントを進めることが出来ました。今回ご協力いただいた学生の皆様、本当にありがとうございました！



ティーチングアシスタントを経験して

奈良医大 医学部医学科 法田 祐希

今まで何度かTAとしてイベントに参加させて頂いています。その度に女子中高生の皆様の熱心で直向きな姿勢や素朴ながらも鋭い疑問に感心し、大いに刺激を受けています。キラキラとした女子中高生の皆様との触れ合いを通して、私自身が医師を志した頃の初心が思い出され身が引き締まり、私にとりましてとても貴重な学びの機会となっています。

今回のイベントが、参加してくれた女子中高生の皆様の将来の進路決定のお役に立ちましたら嬉しく思います。また、医学に限らず様々な物事に興味を持ち自分自身で経験するということがこれからも大切にしてほしいです。

奈良医大 大学院看護学研究科 安田 真悠

助産の分野でイベントをお手伝いさせていただきました。進路について考える中高生を前に、自分自身が進路について考えていた時のことを懐かしく思い、少しでも役に立てることがあればいいなと思いました。体験では新生児人形を用いて計測やバイタル測定、妊婦体験などをティーチングすることで、助産に興味を持ってもらえるよう分かりやすく伝える方法を考えることができました。新生児人形に触れて目を輝かせていた彼女たちが将来、興味を持って医療従事者を志してくれればと思います。また現場で活躍されている女性の話を聞くことで、私自身も将来のキャリアを考える良い機会になりました。

Report 2

中央臨床検査部水野麗子講師が国際ソロプチミスト奈良ーあすか女性研究者賞を受賞されました



ソロプチミスト日本財団では、さまざまな分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の躍進への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、本学中央臨床検査部水野麗子講師が「人体に優しい癌化学療法の実現を目指してーマイクロバブルによる心筋選択的カンナビノイド受容体阻害を用いたアントラサイクリン心毒性抑制手法の確立」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良ーあすか女性研究者賞を受賞されました。

Report 3

FD 講演会「医療専門職とジェンダー～生涯キャリアの観点から～」を開催しました



12月21日、本学教育開発センターと共催でFD講演会「医療専門職とジェンダー～生涯キャリアの観点から～」を開催しました。

講師には京都大学大学院教育学研究科 生涯教育学講座の渡邊洋子准教授をお招きしー過性ではない「生涯キャリア」という視点を持つことの重要性についてご講演いただきました。生涯キャリアに向けた第一歩として、自分とは違った要素を持つ周囲の人たちと生涯キャリアの課題について話し合う機会を持つ事も大切であるとお話しいただきました。センターでは今後も男女共同参画の視点に基づいたキャリア教育に取り組んでまいります。

Report 4

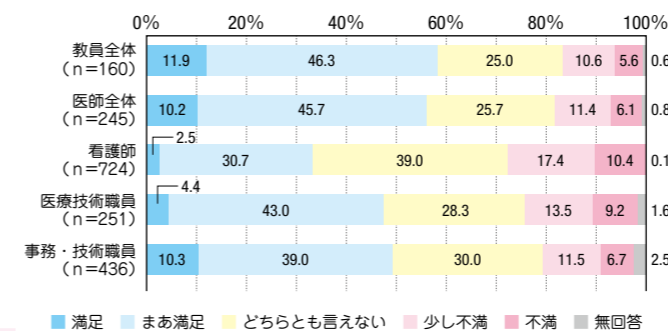
ワークライフバランス推進のためのアンケート集計結果報告

前号に引き続きワークライフバランス推進のためのアンケート集計結果から一部を抜粋し報告していきます。今回は現在の仕事の質、内容に対する満足度と1週間当たりの総労働時間についてです。

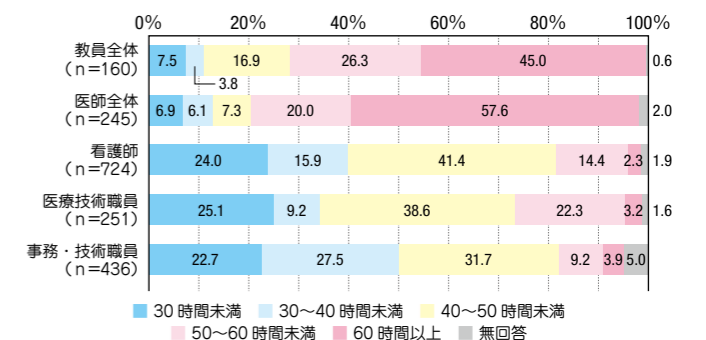
現在の仕事の質、内容に満足していますかという質問については、全職種で満足+まあ満足割合が不満+少し不満を大幅に上回っており、本学の教職員が自身の仕事に誇りを持って取り組んでいることがうかがえます（図1）。

また、超過勤務を含む1週間当たりの総労働時間をたずねたところ、医師（臨床系教員を含む）と裁量労働制をとる基礎医学・教養教育・看護学科教員を除いた職員では週労働時間60時間以上の就業者の割合は全体3.0%、男性5.8%、女性2.1%であることがわかりました（図2、表1）。これは、平成24年総務省労働力調査の結果（全体9.1%、男性13.7%、女性3.0%）と比較して低く、厚労省の掲げる仕事と生活の調和推進のための行動指針の中の2020年までの数値目標5%に近い数値であるということになります。一方、医師に関しては、「1週間当たりの総労働時間」と「ワークライフバランス」に対する満足度には有意な相関関係があり、週の労働時間が60時間を超えると「ワークライフバランス」満足度が低くなることが明らかとなり（表2）、週労働時間を60時間以内に抑えるための対策が求められています。

【図1：現在の仕事の内容、質に満足していますか】



【図2：1週間当たりの総労働時間はどれくらいですか】



【表1：週労働時間60時間以上の職員の割合】

	全体	男性	女性
本学職員（医師・教員を除く）	3.0%	5.8%	2.1%
非農林業雇用者総数に占める割合 平成24年総務省「労働力調査」	9.1%	13.7%	3.0%
2020年までの国の数値目標	5%以下		

【表2：医師の1週間当たりの総労働時間×WLB満足度】

医師	n	満足	どちらとも言えない	不満
1週間あたりの総労働時間	240	31.7%	23.3%	45.0%
60時間未満	99	44.4%	26.3%	29.3%
60時間以上	141	22.7%	21.3%	56.0%

ハラスメントを未然に防ぐためのコミュニケーションスキルについて毎号ご紹介していきます。

第16回 『仕事と妊娠・出産・育児の両立をめざして』～上司編（2）～

女性教職員が妊娠・出産・子育てを機に退職することなく就労継続し、職場の重要な戦力となりキャリア向上をはかるためには、本人と上司との良好なコミュニケーションが必須となります。今回は上司の方々に向けて、休業中や復職後の部下とのコミュニケーションスキルについて紹介します。

産前・産後・育児休業中 「安心して下さい、休業中も仲間ですよ」

本人から出産の連絡があった場合には祝福の気持ちを言葉で伝え、部署内の人たちへも知らせましょう。その際に、母子の健康状態を確認して下さい。出産予定日を過ぎても報告がない場合は、上司から連絡を取り、母子の健康状態を尋ねて下さい。育児休業中も定期的に連絡を取り、職場の情報提供を行い、本人に帰属意識を持ってもらえるように支援をお願いします。女性研究者支援センターでは、復職支援の一環として、育児休業中の女性教職員が、本学が受講を義務付けている講習会を受講する際には、無料託児を行っています。詳細については、センターまでお問い合わせ下さい。



復職に向けての面談（復職1～2ヶ月前） 「期待していますよ」

上司として、スムーズな職場復帰を果たしてもらうため、そして部下の育成責任を果たすために必要なことは、遠慮せずに聞いて下さい。①子供の健康状態、②子供の預け先、③預かり時間等保育条件、④家族その他の協力体制、⑤部分休業等制度活用の有無と期間、⑥本人の確認したい事柄をリラックスして話せる様に、なごやかな状況で面談しましょう。部分休業や短時間勤務制度利用の希望がある際には、「制度があるから、上限まで使えるから」ではなく、利用する理由および利用期間が合理的かどうか注意到意して尋ねて下さい。復職者本人は、長期的な視点が持ちにくく不安を抱えていることが多いので、復職後のバックアップ体制を伝えた上で、中長期的な育成の観点に立って活躍への期待を言葉で伝えて下さい。

復職後の面談（復職1～2ヶ月後） 「大丈夫、大丈夫」

復職1～2ヶ月を経過した頃に、業務の進展状況、子供の保育状況、復職後に困っていること（仕事面と保育面）について、面談し確認して下さい。その際に、復職前に準備していた職場のバックアップ体制が上手く機能しているかどうかを本人と担当者に尋ね、調整して下さい。復職者の多くは、時間の制約がある新しい生活ペースに慣れず、戸惑い悩んでいます。子供の病気で急に休む等で迷惑をかけ申し訳なく思ったり、新たなチャレンジに躊躇する部下に対しては、「大丈夫、何とか工夫をして乗り切ろう」と前向きに仕事に取り組める様な言葉をかけて下さい。復職後の苦しい時期にかけられた上司からの優しい言葉は、魔法の言葉となり部下の職業人生を前向きなものに導いてくれます。どうか部下の5年後10年後も大事に考えて下さい。



【編集後記】

女子中高生の医療分野進路選択支援イベントが無事終了いたしました。薬学・助産・看護の実習はセンターでも初めてのことで不安もありましたが、学外含め多くの方々のご協力により、参加者から「楽しかった！」との感想をいただくことができました。すでに次回開催を望む声が多数寄せられています。皆さんの期待に応えられるよう今後も内容を工夫して実施していきたいと思っております。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011（直通）0744-22-3051（代）内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

